



ホテルの施設も熱帯海洋性気候ならではの演出が凝らされています



高級リゾート感あふれる三亜亜龍湾マリオット・リゾート&スパ



三亜亜龍湾エリアにあるMGMグランド三亜は、海南島に初めて進出した外資系ホテルです

国際級リゾートアイランドに急成長 ゴルフ場の規模とクオリティはアジア随一

広東省の雷州半島と瓊州(けいしゅう)海峡を隔てて向き合っている中国最南端に浮かぶ海南島は、ハワイとほぼ同じ北緯18°20度に位置する熱帯海洋性気候のリゾートアイランドです。近年のインフラ整備・拡充で旅行環境が大幅に改善されると同時に、外国からの直接投資などによりゴルフ場やホテルの水準も向上し、中国の新たなデスティネーションとして注目を集めています。

国際観光島として強力に基盤整備

1988年に広東省から分離した海南省は、中国の最も新しい省として発展を続けており、2010年からは国際



中国国家観光局駐日本代表処の王偉首席代表

観光島としてツーリズム産業の基盤強化が積極的に進められています。

中国政府は同年、中国で最大の経済特区である海南省を国際的な観光地として開発する戦略について、「中国観光業界の改革・新機軸のテスト地区」「世界一流の海洋レジャー観光地」「全国の生態文明建設のモデル地区」「国際経済協力と文化交流の重要な地区」などと位置づけ、2020年までに同省を世界一流の海上レジャー観光地とするための第一段階を完成させる方針を発表しました。

同島の開発に際しては、生態系維持と環境保護を厳格に行う方向性と同時に、観光業界全体のレベルアップ、観光業界と関連するサービス産業の発展などの方針も示され、国際大型定期観光船の埠頭建設、ゴルフ場開発プロジェクトの実施、免税ショッピング地区の設置などの計画が明らかにされています。

中国国家観光局駐日本代表処の王偉首席代表は、「海南島におけるゴルフ場の質量ともにアジア随一のレベルになっていることを、日本の皆さんにも是非知っていただきたい」と語



リゾート化が進んでいる海南島の沿岸部(写真はマリン・アミューズメントの「分界州島」)



「海南島で最も美しいホール」と言われる清水湾ゴルフクラブの15番ホール



海を臨む半島の入り組んだ地形にコースが設計されている神州ゴルフクラブ



南山文化観光区の金剛洲に聳える巨大な南海上観音聖像



リー族やミャオ族の家屋や伝統工芸、民俗芸能などが展示・上演されている「檳榔谷少数民族村」



1200種以上の熱帯植物が鑑賞できる万寧市の興隆熱帯植物園



熱帯雨林の大自然を満喫できる「ヤノダ熱帯雨林文化旅游区」

り、国際観光島として強力に進められてきた基盤強化によって「ゴルフ場だけでなく外国からの直接投資による国際級ホテルの相次ぐ開業など、観光インフラの開発と水準の高さは目を見張るものがある」と強調。「日本市場では、レジャー需要だけでなく、インセンティブ需要やコンベンション需要をはじめとするMICEマーケットの開発も進めていく」方針です。



色とりどりで美しいリー族の刺繍「黎錦」(写真は「檳榔谷少数民族村」)

自然から歴史文化まで多様な素材

海南島の周囲には珊瑚礁が広がる一方、内陸では熱帯雨林の原生林も密集しており、熱帯海洋性ならではの自然も同島の大きな魅力となっています。また、同島は火山島でもあることから、島のいたるところに温泉が湧き出しており、スパが楽しめる保養施設や温泉リゾートなども少なくありません。

2016年末時点で海南島の人口は約917万人に達しています。80%を占める漢民族のほかにも、海南島の先住民族であるリー族が約130万人、大陸から渡来したミャオ族が約8万人、イスラム教徒の回族が約1万人を数えるなど、島には少数民族がお互いの伝統や生活、文化を尊重し合っており、その多様性と共生ぶりも海南島のユニークさを印象づけるものとなっています。

さらに、海南島は、古くから流刑地の代名詞、あるいは、最も果ての地として怖れられてきた歴史もあります。11世紀の有名な詩人で官吏でもあった蘇軾（蘇東坡）は、辺境の地である島に左遷された時には、死を覚悟して赴任したと伝えられています。省都でもある海口には、唐代と宋代に島流しとなった5人の高官が祀られている五公祠に加えて、その東側には蘇軾を祀った蘇公祠もあり、リゾートステイネーションだけにどこまでも実感できます。

2011年に海南省政府から委託を受け、海南省政府観光局東京事務所を運営している株式会社マックスの正木研代表取締役社長は、「南部の三亜市をはじめ、省都の海口市やアジアフォーラムが開催されるボアオ地区には、大型リゾートホテルが数多く進出しており、島の観光地を結ぶ交通網も、高速鉄道やバス路線などが拡充されたことから、中国国内でも最も旅行しやすい環境が整った」と語り、インフラ水準の高さを強調しています。

日本からの旅行者増加に高まる期待

海南島には、観音菩薩の「常に南海に居る」という願いを叶えるために造られた「南山文化観光区」もあり、国家5A級観光景区に指定されています。海上の小島に立つ「南海海上観音聖像」は高さが108メートルにも及び、独特の仏教景観を形成する存在です。

また、年間を通じてゴルフシーズンとも言える海南島では、火山島の自然景観を生かした国際スタンダードでダイナミックなゴルフ場の建設も急ピッチで進められました。火山遺跡群に18ホール10コースの雄大な景観が見る者を圧倒する「ミッシンヒルズ海口」やトムワイスコフが3コースのデザインを手掛けた「神州ゴルフクラブ」など、海南島のゴルフ環境はアジア全体で見ても質量ともに他の追随を許さないものとなっています。

さらに、リッツ・カールトンやヒルトン、マリオット、MGM、シェラトン、パークハイアット、ウェスティンといった国際級のホテルが数多く進出している三亜龍湾エリアに続き、隣接する三亜海棠湾エリアでも国際級のホテル建設が相次いでおり、日本からの旅行需要増加への期待も高まっています。

また、年間を通じてゴルフシーズンとも言える海南島では、火山島の自然景観を生かした国際スタンダードでダイナミックなゴルフ場の建設も急ピッチで進められました。火山遺跡群に18ホール10コースの雄大な景観が見る者を圧倒する「ミッシンヒルズ海口」やトムワイスコフが3コースのデザインを手掛けた「神州ゴルフクラブ」など、海南島のゴルフ環境はアジア全体で見ても質量ともに他の追随を許さないものとなっています。

海南島では、2010年末に海口／三亜間で高速鉄道の東回り路線（東環高鉄）が開通して運行がスタート。2015年末には三亜／海口間を結ぶ西回り路線（西環高鉄）も開通して、島の外環を一周する高速鉄道の環状線が完成する一方、通行が無料の高速道路網も整備が進んでいることから、島内各地へのアクセスは格段に改善されています。

中国国家観光局 駐日本代表処